

目次

ニュース検定とは	4
本書の構成と使い方（教科書対照表はスマホでアクセス）	5
●入門編 フェイクニュースって？	6

政治

① 政治参加と制度改革	8
18、19歳 政権選択選挙でも1票	8
2019年へ どうする参院選改革	10
衆議院 自公「3分の2」超を維持	9
国会議員を選ぶ選挙の仕組み	11
② 日本国憲法の行方	12
改正憲法「2020年施行」目指す首相	12
改憲論議 テーマも立場も多様	14
9条改正を巡る深い溝	13
立憲主義とは何か	15
③ 日本の政治と安倍内閣	16
長期政権に問われる「合意の政治」	16
安倍内閣の5年	18
賛否割れる中、「テロ等準備罪」創設	17
戦後の政権の変遷	19
④ 天皇陛下2019年春に退位	20
特例法成立 200年ぶり退位へ	20
安定的な皇位継承なお課題	21
⑤ 日本の外交・安全保障	22
日米 結束とジレンマ	22
対北朝鮮 足並みに乱れも	24
安全保障関連法の基礎知識	26
日中関係 改善進む	23
沖縄で相次ぐ米軍機の事故	25
日本の領土問題と尖閣諸島	27
⑥ 超高齢社会の地方	28
過疎の町村 議員のなり手不足	28
「無投票」目立つ地方選挙	29
地方自治の仕組みと政治参加	30
地方財政なお「3割自治」	31
●複眼鏡 「自分の頭」で考える	32
●資料	34

経済

⑦ 足踏みする財政再建	36
借金返済分を教育無償化に	36
赤字国債 1970年代から常態化	38
高所得の会社員は増税	37
消費税率「10%」は2度延期	39
⑧ 脱デフレ 道半ば	40
「いざなぎ」超え 個人消費は低迷	40
GDP 「年600兆円」目標掲げたが	42
物価上昇「年2%」にほど遠く	41
アベノミクスの「三本の矢」	43
⑨ 堅調な世界経済 リスクも	44
リーマン・ショックから10年	44
「質の高い発展」目指す中国経済	46
金融政策正常化 米国に続く欧州	45
為替相場を動かす要因は？	47
⑩ 揺らぐ世界の自由貿易	48
米離脱後の11カ国でTPP合意	48
保護主義に傾くトランプ政権	50
日欧EPA 交渉妥結	49
揺らぐ多角的貿易交渉	51
⑪ エネルギー政策の未来	52
原発再稼働へ相次ぐ「合格」	52
「もんじゅ」廃炉は前途多難	54
エネルギー基本計画見直しに着手	53
都市ガス小売りも全面自由化	55
⑫ 世界の中の日本産業	56
激化するEV開発競争	56
A Iがもたらす「産業革命」	58
品質管理で問われる企業統治	57
日本産業の「主役」は中小企業	59
●複眼鏡 経済の要、それは信用	60
●資料	62

暮らし

⑬ 人口減少 歯止めなく	64
日本の人口 10年連続「自然減」	64
「1億人」維持 高いハードル	66
生産年齢人口、50年後に4割減	65
少子高齢化の影響と背景	67
⑭ 曲がり角の社会保障	68
介護と医療 制度存続へ負担増	68
社会保障給付費また過去最高	70
「2025年問題」にらみ2報酬改定	69
暮らしを支える公的保険制度	71

⑮ 働き方改革 待ったなし	72
労働力不足解消へ二つの「革命」	72
女性が働きやすい環境は	74
「同一賃金同一労働」で説明責任	73
新たな残業規制 なお批判も	75
⑯ 消費者行政のいま	76
原材料の原産地表示 全加工食品に	76
知っておきたいクーリングオフ	78
若者を悪質商法から守るため	77
消費者を守る行政システム	79
●複眼鏡 AIが開く「まさか」の扉	80
●資料	82

社会・環境

⑰ 共に生きる社会へ	84
障害者差別禁止「国会も対象に」	84
「旧姓使用」普及を目指す政府	86
在留外国人増える陰で	85
難民受け入れ 少ない日本	87
⑱ 司法と市民生活	88
令状なきGPS捜査は「違法」	88
改正された民法、刑法	90
刑事法の原則変えたテロ等準備罪	89
裁判員制度と検察審査会	91
⑲ 情報社会に生きる	92
働き方変える「テレワーク」	92
情報社会に潜む危険と対策	94
個人情報の活用へ匿名化	93
問われるネットのモラル	95
⑳ いのちと科学を考える	96
受動喫煙対策 法改正は難航	96
広がる出生前の染色体検査	98
ゲノム編集に期待と懸念	97
命をつなぐ臓器提供	99
㉑ 五輪の旗が目指すもの	100
平和への願い オリンピズム	100
2度目の「東京」レガシーは？	101
㉒ 原発事故からの復興	102
進まない古里への帰還	102
福島第1 原発廃炉にハードル	103
㉓ 持続可能な未来へ	104
「パリ協定」米国は離脱表明	104
水銀被害防止へ 水俣条約発効	106
実効性のカギ握るルール作り	105
さまざまな環境問題と対策	107
●複眼鏡 時代と向き合う	108
●資料	110

国際

㉔ 米国・中国 新たな選択	112
波紋広げる「米国第一主義」	112
習氏が掲げた中国の新目標	114
分断深めるトランプ政治	113
米国とロシア・中国の関係は	115
㉕ 岐路に立つ欧州	116
「反EU」候補を降したマクロン氏	116
「テロ」「難民」欧州の苦悩	118
英国の正念場 EU離脱協議	117
ポピュリズムとは	119
㉖ テロ・内戦 遠い出口	120
イスラム国（IS）「壊滅状態」に	120
ミャンマーのロヒンギャ問題	122
シリア和平 見えない道筋	121
居住地を分断されたクルド人	123
㉗ 核廃絶への道のりは...	124
核兵器禁止条約 日本は不参加	124
新型核開発に転じた米国	125
●複眼鏡 尊厳と礼節を原点に	126
●資料	128

●2015～2017年 重大ニュース	130
●ニュースのことば	134
●索引	141
●チェック問題の解答例	143

◆ 各分野末尾の「複眼鏡」は、毎日新聞の玉木研二・客員編集委員が執筆しました。

■ 本書の内容は、原則として2017年末までのニュースに基づいて編集しています。ただし一部のテーマは、それ以降の動きも踏まえています。
■ 本書に掲載している写真や図表、イラスト、漫画などで出典などを明記していないものは原則として、毎日新聞社の紙面・刊行物から引用しています。

ニュース検定にチャレンジするあなたを、この公式テキストが応援します。この本は毎年、最新ニュースを盛り込んで編集し直しています。じっくり読み込んで、2018年度版「公式問題集 1・2・準2級」に挑戦してみましょう。あなたの「時事力」がこのテキストでめきめきと上がったことを実感できるはずです。2・準2級検定問題(45問)の約6割は、公式テキストと公式問題集から出題されます。さあ、合格証は目の前です。

要点 テーマのポイントです。このポイントを頭に入れて、解説を読み込みましょう。

解説 テーマを理解するための分かりやすい解説は、このテキストの中心です。精読しましょう。

注釈 分かりにくい用語を丁寧に解説しているほか、解説部分の背景などについても詳しく説明しています。

論点 賛否が割れている時事問題について、賛成、反対それぞれの主な根拠を簡潔に紹介します。検定対策のほか、小論文対策、主権者教育における一資料としてもご利用いただけます。

24 米中関係 新たな緊張

分断深めるトランプ政権 米韓同盟強化
「11月体制」固めた習近平 中国
プーチン大統領、政権の歴20年以上

トランプ政権は米中関係に新たな緊張をもたらしている。米中関係は、トランプ政権の就任以来、一変した。トランプ大統領は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

トランプ政権は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

4 支持基盤を強く国政

トランプ政権は、米中関係に新たな緊張をもたらしている。米中関係は、トランプ政権の就任以来、一変した。トランプ大統領は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

トランプ政権は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

25 経済政策 米中関係

米中関係の緊張は、経済政策にも影響を与えている。トランプ政権は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

トランプ政権は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

26 経済政策 米中関係

米中関係の緊張は、経済政策にも影響を与えている。トランプ政権は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

トランプ政権は、中国を「世界最大の盗国」と見做し、対中貿易政策を激変させた。一方、中国の習近平主席は、11月の総選挙で権力を固め、米中関係の緊張をさらに深めている。また、ロシアのプーチン大統領は、政権の歴20年以上となり、米露関係にも緊張をもたらしている。

サイドミラー テーマに関連するトピックをひろいました。解説ですくいきれない視点を提供し、理解を多角的に深めます。

時事力Basic 制度の基本や論議のポイントなどを解説しています。テーマの内容や日々のニュースを理解する手助けにもなります。

チェック問題 テーマの内容からピックアップした穴埋め問題です。テキストの内容を理解できたか確認してみましょう。実際のニュース検定問題は四肢択一です。

2級合格Check!
2級合格をめざす人は、このコーナーもしっかり読んでおきましょう。

写真 豊富な報道写真の中からテーマに沿った象徴的なショットを掲載しています。

図解 解説の理解を助けるグラフやイラストを配置しています。忘れずに目を通しましょう。

これは使える！学校の授業にも

「いま」を読み解くための重要テーマを整理したこの本は、社会（公民的分野）、公民の学習を深めるのにもってつてです。地理歴史、家庭、情報などの学習とも多くの接点があります。ぜひ学校の勉強にも役立ててください。

中学・高校の教科書（主な内容）とこの本の対応がひと目で分かる「教科書対照表」は、ニュース検定の公式サイトでごらんになれます。スマートフォンをお使いの方は右のQRコードを読み取れば、簡単にアクセスできます。

●この本で使う用語のご案内

この本の中で使う用語（人名や団体名、国名などの固有名詞を含む）は原則として、一般の新聞・テレビのニュースで日ごろ使われている表記（略称を含む）になっています。ただし、報道機関によって表記が異なる場合は、毎日新聞の表記になっています。一部の用語はその記事で初めて出てきた時に限り正式名称を使っています。

海外のできごとの日付は原則として、現地時間に基づいて表記しています。